

少子化の進行

毎年3月といえば、新しい年度に向けて何かと忙しい時期ですね。仕事や学業で引っ越しをされる方も多いかもかもしれません。そんな慌ただしい季節ですが、桃の節句に雛祭りを家族でお祝いされた方も多いのではないでしょうか。雛祭りは女の子のすこやかな成長を祈る行事です。新しい命が生まれて元気に成長してくれることは本当に嬉しいものです。

平成10年～平成25年の間に京都府で生まれた赤ちゃんの男女別人数の推移をみると図1のようになります。年々生まれる赤ちゃんの数は減少傾向にあることがわかります。

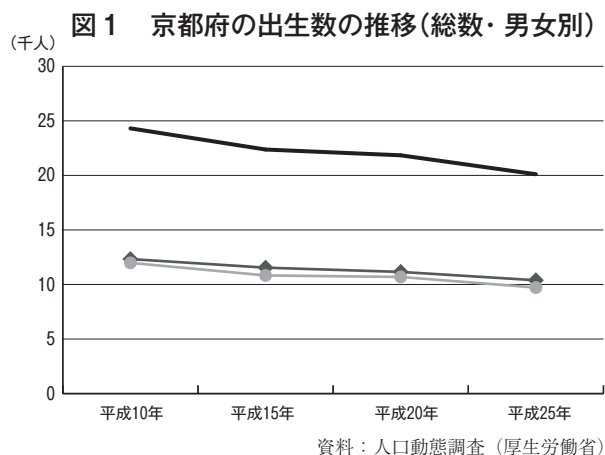


図2 合計特殊出生率(平成25年)

順位	都道府県	率
全国		1.43
1位	沖縄県	(1.94)
2位	宮崎県	(1.72)
3位	鳥根県	(1.65)
	⋮	
45位	北海道	(1.28)
46位	京都府	(1.26)
47位	東京都	(1.13)

資料：人口動態調査（厚生労働省）

また、図2より京都府の15歳から49歳までの1人の女性が生涯に出産する子どもの数を表す指標となる合計特殊出生率（平成25年）は1.26で、全国の中でも京都府は低い方であることがわかります。

また、図3より京都府の出産順位は、平成10、15、20、及び25年の総数の減少に伴い、第1児、第2児は減少を続け、第3児は、平成20年、平成25年ともに、平成15年を上回っていることがわかります。

現在、子育て中の世帯の中から、さらに出産したいと考える人が増え、独身の方の中から、結婚、出産したいと思う人がもっと増えていくことで、京都府の将来を担う若い世代が増加していくことが期待できます。

